



# 対がん協会報

1部70円(税抜き)

第640号

2016年(平成28年)  
9月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F  
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な 内容	1面～4面	朝日がん大賞、日本対がん協会賞
	5面、6面	グループ支部2014年度がん検診実況状況から子宮頸がん
	8面	ビューティースマイルプロジェクト開催

## 朝日がん大賞 地域がん登録全国協議会に 日本対がん協会賞は5氏1団体に

日本対がん協会は9月1日付で、2016(平成28年)年度の朝日がん大賞を、がん登録の基盤整備と登録データの利用促進によるがん対策に貢献した、特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会(田中英夫理事長)に贈ると発表した。



地域がん登録全国協議会20周年記念シンポジウム

また、日本対がん協会賞は、がん征圧活動に大きな功績のあった5氏と1団体に決まった。9月9日に京都市で開かれる「がん征圧全国大会」で表彰される(2～4面に受賞者の紹介)。

特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会は、都道府県の任意事業として行われてきた地域がん登録事業の基盤整備などを目的に、都道府県のがん登録担当者有志によって1992年に設立された。

都道府県のがん登録室間の交流・研究、研修、広報事業を通じて、がん登録事業の技術支援、人材育成などに努めてきた。学術集会や研修会などを開催し、我が国のがん登録ルールの設定や個人情報保護の具体的方策を提示し、都道府県のがん登録によるがん罹患率、死亡率、生存率等の情報の標準化と質の向上に大きく寄与した。

2013年12月に成立した「がん登録等の推進に関する法律」の原案作成では協議会が積極的に関係者への説明にあたり、本法律成立において重要な役割を果たした。法制化後もがん登録データの利活用の啓発など、より有効ながん対策推進に大きく貢献し、がん登録によるがん対策の新時代を切り開いた功績が高く評価された。

日本対がん協会賞個人の部に選ばれたのは、広島県地域保健医療推進機構参与の木村昭二郎氏(74)、岐阜県産婦人科医会理事で黒木医院院長の黒木尚之氏(68)、群馬県健康づくり財団胃がん検診専門委員会委員長で関口医院院長の関口利和氏(81)、熊本県総合保健センター所長の土亀直俊氏(69)、兵庫県健康財団保健検診センター顧問の西田道弘氏(81)の5氏。それぞれの地域で、がんの早期発見・

早期治療の啓発や、精度の高い検診体制の確立に尽力し、地域住民の健康に大きく貢献したことが評価された。

日本対がん協会賞団体の部には、埼玉県内の乳がん専門の医師の有志がグループを作り、一般向け

の乳がんに関するフォーラムの開催など、乳がんの啓発活動を行っているNPO法人埼玉乳がん臨床研究グループが選ばれた。

朝日がん大賞は、日本対がん協会賞の特別賞として、朝日新聞社の協力で2001年に創設され、今年で16回目。日本対がん協会賞は49回目、がん征圧活動に功績のあった個人や団体に贈られる。

選考委員は次の通り。垣添忠生・日本対がん協会会長(委員長)、武藤徹一郎・がん研有明病院メディカルディレクター・名誉院長(副委員長)、横倉義武・日本医師会会長、大内憲明・東北大学大学院医学系研究科教授、津金昌一郎・国立がん研究センターがん予防・検診研究センター長、桑山朗人・朝日新聞社科学医療部長、秋山耿太郎・日本対がん協会理事。

**がん相談ホットライン** 祝日を除く毎日  
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

**医師による面接・電話相談(要予約)**  
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

## 朝日がん大賞

がん登録の基盤整備と登録データの利活用を促進  
有効ながん対策推進に貢献

## 特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会

(理事長：田中英夫・愛知県がんセンター研究所疫学・予防部部长)

今年1月から「がん登録等の推進に関する法律」(がん登録推進法)が施行され、これまで都道府県の任意事業として行われてきた地域がん登録事業の実施主体が国に移行した。この地域がん登録事業の導入・普及や技術支援などを目的に、都道府県のがん登録担当者有志によって1992年に設立されたのが、地域がん登録全国協議会だ。

がん登録推進法の施行によってがんの罹患数や生存の状況など、患者の個人情報、都道府県ごとにオンライン入力されて国がデータベース化して一元管理するようになったが、こうしたがん登録事業の基盤整備や、登録データの利活用の促進に、地域がん登録全国協議会の活動が大きな役割を果たしてきた。

## 登録データの精度向上へ

がんの診断・治療を受けた患者の治療や経過を都道府県別に収集・解析する地域がん登録は、1951年に宮城県で始まり、国の補助金などを使って徐々に増え始めたが、都道府県の任意事業で、研究者個人の努力に依存したものになっていたため、未実施の県も

多く、実施体制や登録方法も県によって異なり、登録漏れなど、登録データの精度が問題になっていた。

登録精度の向上を目的にした活動が国のがん研究助成金などで支援されていたが、その支援を受けられない県などもあった。こうした状況を改善しようと、92年12月に、地域がん登録事業を進めていた各府県のがん登録室間の交流・研究、研修や、登録データの精度向上と標準化、資料利用促進などを目指して協議会が設立された。

毎年1回の学術集会を開催し、登録データを利活用した成果を掲載した論文集(JACRモノグラフ)、ニューズレターを発行するなどして、地域がん登録事業をしている各道府県の情報交換、知識・技術の普及を図った。協議会ができたことで、新たながん登録を開始する県への技術指導なども進んだ。

96年には厚生労働省の地域がん登録研究班が「地域がん登録における情報保護」のガイドラインを作成した。その研究班の中心は協議会のメンバーだった。2005年には「地域がん登録における機密保持のガイドライン」も協議会が作成した。日本のがん登録ルールの設定や個人情報保護の具体的方策を提示したことで、地域がん登録でのがん罹患率、死亡率、生存率等の情報の標準化と質の向上に大きく寄与した。

06年にはNPO法人格を取得。設立当初は30府県1市だった会員の自治体も16年には47都道府県1市に広がった。

## 法制化にも寄与

2013年12月に成立したがん



田中英夫理事長

登録推進法の原案作成では、協議会が積極的に国会議員や法制局、厚生労働省などに対して、がん登録の法制化を要望する意見書を提出するなど、積極的に説明に回った。欧米では標準的な届け出の義務化がされないと正確ながんの罹患率が得られず、国が一元管理する方式でないと、生存率を出せる県も限られ、有効ながん対策に生かせない。なぜ法律が必要かを訴え、法律成立に重要な役割を果たした。

法制化後は登録データを利活用して各都道府県のがん対策推進計画を立案するための技術支援や、がん患者・家族が必要とするがん登録情報をわかりやすく発信することなどへの比重が大きくなる。田中英夫理事長(愛知県がんセンター研究所)は「がん登録推進法ができたことで、登録資料を使ってどうがん医療やがん予防に貢献するのが期待がより高まってくる。これまでの経験を生かして貢献できる団体であり続けたい」と話している。

また、国による「全国がん登録」の開始に伴い、協議会の名称も地域限定のがん登録といったイメージにならないために、近く「日本がん登録協議会」に変更することになっている。



地域がん登録全国協議会が発行しているニューズレターや啓発用の小冊子



# 日本対がん協会賞

## 広島市の胃がん・肺がん・乳がん検診の読影精度向上に貢献

木村昭二郎(きむら・しょうじろう)74歳 広島県地域保健医療推進機構参与



1968年に長崎大学医学部を卒業後、同大の放射線科に入局。診断と治療に追われる中、

胃がん検診の読影の仕事にもかかわるようになった。84年に広島県立広島病院に放射線科部長として赴任後は、胃がん・肺が

んの読影医となり、翌年から結核予防会広島支部(現・広島県地域保健医療推進機構)の職域・学校検診に従事。97年からは同支部の肺がん専門委員会・読影員会委員として本格的に読影に取り組むことに。2002年からは両委員会委員長として撮影・読影に関する指導・助言に尽力し、07年からは広島県地域保健医療推進機構の胃がん・大腸がん・乳がんの専門委員会、マンモグラフィ読影員会の委員として一日に胃がん30件、肺がん340件、マンモは60~70件の読影をこなした。

「無症状の人のがんをなるべく早期に見つけてあげたい。読影が好きなんです」。

読影には、自分なりの正常画像を頭に入れて臨む。「主治医だと、患者に症状がないと、画像上の所見を注意してみないことが多い。私は直接患者を診ていないからこそ、違う目で読影ができて早期のがんを探してきたと感じている。わずかな変化でも気づけるのが私たちの仕事」と話す。今も週2回、同機構で読影を続けている。

## 中山間地での子宮頸がんの早期発見・早期治療に貢献

黒木尚之(くろき・なおゆき)68歳 黒木医院院長



1933年に当時の岐阜県下呂村で産科診療所を開業した祖父から3代にわたって中山間地の産婦人科医療を担っている。73年に大学卒業後、国立名古屋病院などで産科医療に取り組み、90年に地元の黒木医院に副院長

として戻ってからは、岐阜県が実施する検診車による子宮頸がん集団検診の検診医として下呂市の子宮がん対策にかかわるようになった。

当時は保健所が、検診日に検診する医師をバス検診の場所まで連れて行って実施していたが、「いつでも受けられる個別検診でない」と、検診のすそ野が広がらない」と下呂市に個別検診の実施を働きかけ続けていた。黒木医院院長となった2005年からは、下呂市内では下呂温泉病院以外でも唯一個別検診が受けられる個別検診医療機関と

なった。

個別検診開始時は、岐阜県内で日本超音波医学会の専門医資格を持った一人の産婦人科医だったこともあり、子宮頸がんの個別検診の受診者には子宮や卵巣の超音波検査も無料で実施し、子宮がんやその他の疾患の早期発見・早期治療に取り組み、中山間地域での子宮がん対策に貢献した。08年からは下呂温泉病院の非常勤医師も兼ねており、昼夜関係なく患者の要請に応じ、地域の産婦人科医療を支え続けている。

## 胃がんの個別検診導入で、検診受診率上昇に寄与

関口利和(せきぐち・としかず)81歳 関口医院院長



1962年に群馬大学医学部を卒業した当時、胃がんの検診が各地で始まり、胃がん検診を始め

ていた同大第一内科に入局。63年から群馬県の胃がん検診のメンバーとして検診車に乗って胃X線間接撮影の読影をしたり、精密検査で内視鏡検査をし

たりするなど、胃がん検診に大きくかわるようになった。10年ほどして、県内都市部の胃がん検診受診率が低かったことから、前橋市から対策の相談を受けた。各医療機関のレントゲン装置でいつでも胃がん検診が受けられる個別検診のシステムを前橋市医師会に導入し、発展させた。

群馬大学第一内科助教を経て、関口医院を開業した群馬県太田市でも検診車による胃がん検診の指導にあたったが、受診率が低下してきたことを受けて、太田市でも99年から胃内

視鏡検診も組み合わせた個別検診を太田市医師会に委託して始めることになった。当時は、個別検診で内視鏡検診を導入したところは全国的にも珍しく、内視鏡の専門医もいない中、読影委員会を立ち上げ、手取り足取りで検診する医師を指導して、精度管理に努めた。

その結果、太田市の胃がん検診受診率、胃がん発見率が顕著に上昇した。

「よく食べてよく眠るのが健康の秘訣」と、今も毎週20数人の内視鏡検査をこなしている。

## 胃がん検診の精度管理向上に貢献

土亀直俊(つちがめ・ただとし)69歳 熊本県総合保健センター所長



熊本大学医学部卒業時は外科医志望だったが、外科医になる前に診断学を学んでおこうと放射線科で研修を始めた。「簡単にマスターできる」と思っていたが、「そんな事は当然あり得ず」、以後この道に。当時教室の仕事の一環であった胃がん検診の研

究の手伝いなどしていた30代初めのころ、毎年受けていた胃がん検診を3年間受けなかったときに進行がんが見つかった患者に「検診を毎年受けなくてこんなになってすみません」と謝られてしまった。さかんに自分を責める患者の姿に、「これではダメだ、毎年受けるようにさせないといけない」と、大学病院在職中から、放射線科学の研究はもとより、検診の仕事にのめりこむようになった。

指導者として多くの医学生や放射線技師を世に送り出すとともに、熊本県

内の胃がんの集団検診や精密検査の精度向上に取り組んできた。2004年に熊本県総合保健センター所長就任後は、「肺がん読影委員会」などを設置し、検診機関の精度管理の向上を図り、がん予防の普及啓発にも尽力。地元医師会、テレビや商店街・会社のイベントなどにも積極的に出て講演をするなど、がん検診の重要性を訴え、検診受診を呼びかけてきた。

週に1回は大学の講義にも出かけ、次代の検診を担う人材の養成にも力を注いでいる。

## 兵庫県の胃がん検診機関の精度向上に貢献

西田道弘(にしだ・みちひろ)81歳 兵庫県健康財団保健検診センター顧問



1960年に兵庫県立神戸医科大学(現・神戸大学医学部)卒業後、物理学が好きだったこともあり放射線医学教室に入局した。以後、同大学病院及び関連病院にて放射線科医としてがんの診断・治療全般、臨床研究等約10年間従事した。71年に兵庫県

立がんセンターに移り本格的にがん検診及びがん登録事業に取り組んだ。検診車による胃がん検診で県内の各地を回り、検診の指導を行った。さらに県内の胃がん検診機関の活性化と精度向上を目的とした「兵庫県胃がん検診連絡協議会」を設立した。

検診担当者の技術のバラつきをなくそうと、読影医師や放射線技師の指導にあたり現在に至っている。

当時手書きだった兵庫県がん登録のデータを照合して胃がん、子宮がん集団検診の精度評価を行ったほか、胃X

線検査の医療被曝の実態調査にもかかわった。

80年から県立塚口病院(当時)にて胃腸科、放射線科診療を行い、並行して兵庫県成人病検診管理指導協議会胃がん部会委員として検診精度の向上にも尽力した。

山登りを趣味とし、「月1回は緑の中で体を動かすのが一番の元気の素」と、現在も兵庫県健康財団保健検診センター顧問として胃がん、肺がんX線画像の読影を続けている。

## 乳がんの専門医らが市民向けの乳がん啓発活動を展開

NPO法人埼玉乳がん臨床研究グループ(黒住昌史=くろずみ・まさふみ=理事長)



乳がんで苦しむ人をなくしたいと、1999年に埼玉県内で乳がん診療を行っている医師の有志が集まって設立し

た。県内のどの病院でも同じような治療が受けられるようにと、一般向けの乳がんに関するシンポジウムや講演会開催などの啓発活動や、乳がん治療に携わる人材の育成、乳がんに関する臨床研究の実施と、その成果の発表を活動の柱として活動を続けている。2006年にはNPO法人化し、現在は、34施設の医師62人が加盟している。

2002年から、東日本大震災があった11年を除いて毎年1回実施している乳がん市民フォーラムは、開催時に参加者に取り上げてほしいテーマなどもアンケートし、患者・家族のニーズを探り、翌年のテーマを決めている。

「内容を改善していくことを心がけて開催してきている」と黒住昌史理事長。フォーラムの内容は毎回DVD化しており、乳がん臨床研究グループのサイトから申し込むことで無料で借りられるようになっている。

さらに最新の乳がん情報の冊子も作製し、無料配布を続けており、サイトも通して、乳がんに関する最新の情報提供と、啓発活動を続けている。

症例検討会や医師、薬剤師向けの講演会も開催し、医師だけでなく、メディカルも含めたチーム医療の向上にも積極的に取り組んでいる。



## 永年勤続表彰者 20団体 56人(敬称略)

### ◇北海道対がん協会

藤田博正

### ◇宮城県対がん協会

石倉弘子、藤村千恵子

### ◇秋田県総合保健事業団

山田治恵、畠山陽成、三浦美奈子、紀国谷洋、細川純

### ◇福島県保健衛生協会

小室博史、渡邊典誠

### ◇茨城県総合健診協会

市ノ澤幸子、沼田加代子、廣瀬奈緒子、武石充弘、宮岡典子、松村晴美

### ◇栃木県保健衛生事業団

角田幸雄、荒井康之

### ◇群馬県健康づくり財団

渡辺美佐子、根岸幸子、女屋千代子、

萩野谷美奈子、登坂かおり、塩原龍彦、石川瞳、黛由希子、川野みち子、五十嵐信吾、新井美和子

### ◇ちば県民保健予防財団

小野伸明、田中浩也、長井美佳

### ◇新潟県健康づくり財団

阿部晴樹

### ◇京都予防医学センター

中村誠一

### ◇鳥取県保健事業団

久保田昌平

### ◇山口県予防保健協会

山田千佳

### ◇とくしま未来健康づくり機構

小笹皓雍、近藤安

### ◇愛媛県総合保健協会

山下伸一郎、吉村直樹

### ◇高知県総合保健協会

厨子徳子、杉村敦司、小原貴子、畠中章光

### ◇佐賀県総合保健協会

千住智子

### ◇長崎県健康事業団

一ノ瀬紘子

### ◇熊本県総合保健センター

蓑田貴子、濱崎周一、東真奈美、渡辺佐知子、内村友加里、園田浩子

### ◇鹿児島県民総合保健センター

山野強

### ◇沖縄県健康づくり財団

生盛賢勇、久野直幸、新垣尚哉

## がん教育レポート

# がん教育を考える 神戸市で教育フォーラム

## 佐瀬一洋教授が講演、教職員らと意見交換

神戸市の市総合教育センターで8月18日、教職員や保護者、市民が交流するKOBE教育フォーラムが開かれた。この中の「がんに関する教育」分科会で、日本対がん協会とともに各地でがん教育を実践している順天堂大学大学院の佐瀬一洋教授が、これまでの取り組みについて講演した。分科会には市内小中高の教職員や保護者、市民ら60人以上が参加した。

### がん教育を困難克服を学ぶツールに

佐瀬教授は講演でまず、6年前に悪性骨軟部肉腫という希少がんと診断されたものの、多くの人たちに助けられて治療を受けて生かされていることから、「社会への恩返しができれば」とがん教育に取り組むようになったことを話した。その上で、以前は不治の病として映画などで取り上げられた結核やエイズが克服されてきて、21世紀はそれががんであることを強調。「がん教育を、がんだけでなく様々な困難を克服してきた先輩たちに感謝し、勇気を持ってその困難に取り組む事を教えるツールとして使ってほしい」と訴えた。

### 子どもへの配慮について議論

佐瀬教授の講演後、講演への質問を受ける形で、参加者らによる意見交換が行われた。文部科学省が来年からがん教育の全国的な展開を打ち出していることを受け、市内の小学校教諭からは、「がんが生活習慣だけによってなる訳ではないことを小さい子にはどのように教えたらよいのか」との質問が出た。これに対し、佐瀬教授は「たばこを吸っている人はがんになりやすいとはいえるが、たばこを吸っている人はがんになる、とはいえない」と説明。「リンゴは丸いけど、丸いのはリンゴとはいえないなど、何かわかりやすい例を先生方が用意しておいたらよいのでは」とアドバイスした。「予防できるものは予防しようと教えるべきだが、予防しなかったからがんになったということは絶対ない」と、強調した。

また、家族をがんで亡くした児童・生徒などへの配慮についての質問も出された。佐瀬教授は、家族をがんで失ったからこそ、がん教育の話を知りたいという子どもがいたことを挙げ、「配



分科会で意見交換する佐瀬教授

慮が必要な人にはきちんと配慮すべきだが、通り一遍ではなく、その子たちなりの配慮を」と語った。

神戸市教育委員会健康教育課の碓石指導主事からは、教育の現場では、家族愛の話をするときは母子家庭の子に配慮していることにふれ、事前に保護者に対して、どういう授業をするかを学校だよりなどで情報発信して、保護者からの情報を得て実施するなどの提案が報告された。

佐瀬教授は「がんイコール死とみられていることで『配慮』という問題が出てきてしまう。がん教育を、色々な困難に取り組んでいる人たちを敬い、克服していこうという形にしてほしい」と話した。

## 2014年度 がん検診の実施状況から ◇子宮頸がん

## ■ 全体

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果							
				がん(D)	がん疑い	CIN I (軽度)	CIN II (中等度)	CIN III			CIN I～IIIの 区分不明
								高度	上皮がん	詳細不明	
北海道	66,145	850	794	18	216	19	15	105	44	0	0
青森	41,195	813	673	11	0	190	101	56	19	0	0
岩手	46,815	1,003	888	6	0	160	71	36	19	3	4
宮城	111,492	1,228	1,161	12	0	453	212	81	39	0	0
秋田	23,040	285	249	1	0	80	56	24	20	0	0
山形	38,748	493	398	0	0	79	33	0	0	36	0
福島	76,594	733	692	19	0	209	138	0	0	77	1
茨城	99,669	2,451	2,078	7	0	500	224	114	30	23	5
栃木	38,005	942	822	2	0	321	118	53	14	0	0
群馬	31,632	491	453	6	0	128	57	17	15	10	3
埼玉	12,002	130	93	2	0	29	20	16	2	0	1
千葉	96,736	1,540	1,097	7	0	308	116	65	20	0	13
新潟	52,437	1,045	830	8	3	188	102	51	34	0	0
山梨	186	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	16,118	100	83	0	0	28	8	11	3	0	7
富山	50,756	517	485	6	33	168	70	58	12	0	0
石川	15,925	211	185	2	0	67	19	14	10	0	0
福井	33,251	355	299	5	0	104	45	46	0	0	0
愛知	12,437	178	149	1	0	27	14	9	1	0	2
三重	18,700	215	173	0	0	49	30	18	2	1	1
滋賀	6,358	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都	16,449	714	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	22,091	487	392	3	0	51	18	22	11	0	0
奈良	2,393	30	22	0	0	8	2	4	1	0	1
和歌山	2,978	14	8	0	0	3	1	2	0	0	0
鳥取	12,964	91	75	2	0	26	3	6	4	0	1
島根	9,110	252	136	3	0	19	9	6	6	0	9
岡山	28,041	380	168	0	6	44	14	18	5	0	11
広島	13,427	252	224	2	0	59	14	6	2	0	0
山口	5,584	174	13	0	0	0	0	1	0	0	0
徳島	4,897	110	88	0	0	19	7	1	2	0	0
香川	12,437	196	189	6	0	65	31	15	11	0	0
愛媛	27,289	354	329	3	0	132	32	44	7	0	5
高知	23,721	138	80	5	0	16	10	19	8	0	0
福岡	52,452	768	599	4	0	198	75	49	12	5	12
佐賀	27,649	835	665	9	90	255	74	68	14	0	0
長崎	17,068	164	148	1	15	48	19	15	3	6	0
熊本	36,698	746	562	9	1	82	48	39	31	0	0
大分	22,364	311	281	3	0	85	22	22	10	5	0
宮崎	14,541	530	461	2	0	76	21	27	11	0	0
鹿児島	62,513	507	455	4	39	123	71	1	13	48	2
沖縄	13,140	98	82	3	1	29	11	6	1	0	0
合計	1,316,047	20,796	16,579	172	404	4,445	1,931	1,145	436	214	78

## 2014年度 がん検診の実施状況から ◆子宮頸がん

子宮頸がん以外のがん	精検の結果			異常なしの人数 (E)	精検受診の有無を把握していない人数 (F)	精検の結果を把握している人数 (G)	要精検率 (B/A)	精検受診率 (C/B)	がん発見率 (D/A)	陽性反応の集中度 (D/B)	支部名
	がん以外の疾患	異常なし	その他の結果								
2	359	16	0	65,295	56	794	1.29%	93.41%	0.03%	2.12%	北海道
1	37	139	119	40,382	140	673	1.97%	82.78%	0.03%	1.35%	青森
3	449	137	0	45,812	115	888	2.14%	88.53%	0.01%	0.60%	岩手
2	42	320	0	110,264	67	1,161	1.10%	94.54%	0.01%	0.98%	宮城
0	0	21	47	22,755	36	249	1.24%	87.37%	0.00%	0.35%	秋田
0	126	124	0	38,255	95	398	1.27%	80.73%	0.00%	0.00%	山形
9	0	59	0	75,861	41	512	0.96%	94.41%	0.02%	2.59%	福島
5	590	577	3	97,218	373	2,078	2.46%	84.78%	0.01%	0.29%	茨城
2	18	272	0	37,063	120	800	2.48%	87.26%	0.01%	0.21%	栃木
1	77	126	13	31,141	38	453	1.55%	92.26%	0.02%	1.22%	群馬
0	8	14	1	11,872	37	93	1.08%	71.54%	0.02%	1.54%	埼玉
2	220	346	0	95,196	443	1,097	1.59%	71.23%	0.01%	0.45%	千葉
1	1	194	72	51,392	215	654	1.99%	79.43%	0.02%	0.77%	新潟
-	-	-	-	186	-	-	0.00%	-	-	-	山梨
0	23	3	0	16,018	17	83	0.62%	83.00%	0.00%	0.00%	長野
4	18	116	0	50,239	32	485	1.02%	93.81%	0.01%	1.16%	富山
1	30	39	3	15,714	26	185	1.32%	87.68%	0.01%	0.95%	石川
2	54	42	1	32,896	56	299	1.07%	84.23%	0.02%	1.41%	福井
0	11	74	10	12,259	29	149	1.43%	83.71%	0.01%	0.56%	愛知
1	7	38	0	18,485	42	147	1.15%	80.47%	0.00%	0.00%	三重
-	-	-	-	6,293	65	0	1.02%	-	-	-	滋賀
-	-	-	-	15,735	714	0	4.34%	-	-	-	京都
0	105	127	0	21,604	95	337	2.20%	80.49%	0.01%	0.62%	兵庫
0	1	4	1	2,363	8	22	1.25%	73.33%	0.00%	0.00%	奈良
0	0	1	1	2,964	6	8	0.47%	57.14%	0.00%	0.00%	和歌山
0	11	18	0	12,873	16	71	0.70%	82.42%	0.02%	2.20%	鳥取
0	23	4	57	8,858	116	136	2.77%	53.97%	0.03%	1.19%	島根
0	27	41	2	27,661	212	168	1.36%	44.21%	0.00%	0.00%	岡山
1	18	107	0	13,175	28	209	1.88%	88.89%	0.01%	0.79%	広島
0	8	1	3	5,410	161	13	3.12%	7.47%	0.00%	0.00%	山口
0	0	16	43	4,787	22	88	2.25%	80.00%	0.00%	0.00%	徳島
1	6	14	40	12,241	7	189	1.58%	96.43%	0.05%	3.06%	香川
5	47	53	1	26,935	25	329	1.30%	92.94%	0.01%	0.85%	愛媛
2	2	13	0	23,583	58	75	0.58%	57.97%	0.02%	3.62%	高知
0	48	118	78	51,684	169	599	1.46%	77.99%	0.01%	0.52%	福岡
0	50	105	0	26,814	170	665	3.02%	79.64%	0.03%	1.08%	佐賀
1	10	30	0	16,904	16	148	0.96%	90.24%	0.01%	0.61%	長崎
0	251	101	0	35,952	184	562	2.03%	75.34%	0.02%	1.21%	熊本
7	48	79	0	22,053	30	281	1.39%	90.35%	0.01%	0.96%	大分
4	55	259	6	14,011	69	461	3.64%	86.98%	0.01%	0.38%	宮崎
0	22	132	0	62,006	52	455	0.81%	89.74%	0.01%	0.79%	鹿児島
0	7	5	19	13,042	16	82	0.75%	83.67%	0.02%	3.06%	沖縄
57	2,809	3,885	520	1,295,251	4,217	16,096	0.03%	79.72%	0.01%	0.83%	合計



# 「乳がんをなくすほほえみ基金」事業で変身企画 資生堂などとコラボで 「ビューティー スマイル プロジェクト」開催

8月27日、東京・中央区の資生堂ライフクオリティービューティーセンターで乳がん、子宮頸がんなどの女性のがん患者さんを対象にした変身企画「ビューティー スマイル プロジェクト～キレイの力で元気になろう～」を開催した。

日本対がん協会は「乳がんをなくすほほえみ基金」事業として、がん治療の副作用によるシミやくすみ、脱毛など、女性のがん患者さんの美容上の悩みを解消するための「ほほえみセミナー」を開催してきた。今回はこれまでの美容セミナーの講師陣が力を結集し、女性のがん患者さんを大変身させようというプロジェクトを立ち上げた。

4人の参加者の方々それぞれの個性を生かしてスタイリストがドレスを選び、ヘアスタイリストがウィッグを一人一人に合わせて調整しながら選び、最後にドレスとヘアに合わせたメイクが丁寧に施された。変身した参加者がメイクルームから出てくるたびに、スタッフからは大きな歓声と拍手がわきおこった。

治療中は不安なことが多く、笑顔になることも少なかったそうだが、体調が落ち着いてくるにつれ、キレイにしていると楽しいと少しずつ思えるようになったという。また、ヘアやメイク



はにかみながらすてきな笑顔



変身前の一枚



華やかに変身し「女優みたい」の声も

のセミナーは参加したことがあるが、衣装まで変身できるものは今回が初めてでとても楽しみにしていた、という感想もあった。

はじめは緊張していた参加者の方々が、プロの手によってどんどん磨かれ、輝いていく姿を見て、女性にとって美しくあることは、とても大きな力になるということを実感した。ヘアやメイクアップ、ドレスもすべてが素晴らしい感じがしたが、変身するワクワク感、一段とキレイになったという喜びに彩られた参加者の方々の笑顔は、幸福感にあふれ輝いていた。終了後、ドレスを着替えてもその輝きは変わらなかった。

主催：日本対がん協会・ビューティー スマイル プロジェクト実行委員会

協力：資生堂ジャパン(株)ライフクオリティービューティーセンター、(株)カネカ、



自然な笑顔が弾けて

HWBPヘアウェアビューティープログラム、(株)TOKIMEKU JAPAN (日本対がん協会 広報担当岩井靖子)



各分野のプロたちが力を結集